

礼拝 2020年6月21日(日)

題 『神の招き』

テキスト：使徒言行録による福音書2：37～47

(聖書箇所は最後です。)

今日の聖書箇所には、生まれたばかりのイエスにつながる群れ(教会)の様子が記されています。

ペンテコステを迎え、神の善き力である聖霊を受けた弟子たちは、弱さを身に負いながらも立ち上がりました。先週学んだ聖書箇所2章14節には、「すると、ペトロは11人と共に立って、声を張り上げ話し出した」とあります。神さまによって立ち上がらせてもらったのです。

ペトロの率直で心をこめた話、特に使徒言行録2章36節には、「36:だから、イスラエルの全家は、はっきり知らなくてはなりません。あなたがたが十字架につけて殺したイエスを、神は主とし、またメシアとなされたのです。」との言葉があります。このことばは聞く人々には痛烈な言葉だったと思うのです。「37:人々はこれを聞いて大いに心を打たれ、」とあります。

「心を打たれ」という言葉は「心を刺され」とか「心をえぐられ」とか訳されている聖書もあります。

ペトロの話聞いた人々は「兄弟たち、わたしたちはどうしたらよいのですか」と尋ねたのです。彼らは、この時自分自身を顧みたのです。顧みることができたのです。しかし「イエスを十字架につけたのは、あなたがたなのだ。」という事ですから、この言葉を聞いた人々の中には、腹を立て、怒った者たちも少なからずいたと想像できます。しかし、このペトロの言葉に胸を刺され、心揺さぶられた人々もいたことを聖書は伝えています。

言葉の力は、人間の思いを超えています。真実なことばは、すぐにではなくても聞いた人を変えることができるのです。言葉は出来事となることがあります。言葉と出来事はつながっているとも言えます。私たちも会議や人の集まりの中での語られたひと言によって傷つけられたり、また励まされたりすることがあります。言葉は生きているのです。

ペトロは、38節で「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。39:この約束は、あなたがたにも、あなたがたの子供にも、遠く

にいるすべての人にも、つまり、わたしたちの神である主が招いてくださる者ならだれにでも、与えられているものなのです。」と語りかけています。率直で、心のこもった、力強いことばだと思うのです。このペトロの言葉の中に、使徒言行録のすべての内容が含まれていると言っても良いように思えるのです。神さまが招いてくださる人は誰でも、ユダヤ人でも、外国人でも、日本人でも神さまからの善き力、聖霊を受けることができますのです。

この「悔い改める」という言葉。子どものころや若い頃から教会に来ている人は、食事の時などに「悔い改めよう」とか、冗談を言ったり、聞いたりしたこともあるのではないのでしょうか。それ程、キリスト教で馴染み深いことばです。

「悔い改める」とは、ただ単に悪い事をしたり言ったりしたことを反省するというだけでなく、「心の方向をイエスさまと神さまに変える、心のベクトルを変える」「自分の心の顔を愛なる神さまの方に向ける」ということなのです。「心の地殻変動」が起こること、「価値観の転換が起こる」と言ってもよいかもしれません。イエスのことば、福音はそれまで持っていた価値観を変えて行くのです。

価値観を変えることは、自分で行うことはなかなか困難なのです。反省はできて、悔い改めは難しいのです。私の中の何かが、心の壁がじゃまをするのです。それを聖書は罪と呼ぶのです。罪とは、「生きる方向の的をはずしている」ということだと言われます。「道を見失っている。」ということなのです。私は祈って来たことがあります。「神さま、私をゆるしてください。私の心の中にある人より上に行きたいとの思い、わたしの中にある様々な差別意識、私の中にある有名になりたい思いから解放してください。」と。自分を縛っている力は、自分では気づきにくく、強力で、その鎖とも言ってもよい力から自由になれないのです。しかし、その私たちの心を縛る力から解放するために、神の子イエスさまは十字架に愛の血を流し死んでくださったのです。このことは感謝です。

神さまは、わたしたちの強さではなく、むしろ弱さを用いて、立派さではなく、むしろ愚かに見える方法で、ご自身を伝えて行かれる方なのです。コリントの信徒への手紙Ⅰ 1章21節「世は自分の知恵で神を知ることができませんでした。それは神の知恵にかなっていません。そこで、神は、宣教という愚かな手段によって信じる者を救おうと、お考えになったのです。」ということばが迫ってくるのです。

「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、

罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。」
そして、この賜物としての聖霊は、「39:この約束は、あなたがたにも、あなたがたの子供にも、遠くにいてるすべての人にも、つまり、わたしたちの神である主が招いてくださる者ならだれにでも、与えられているものなのです。」
聖霊を与えるという約束は**すべての人**に及んでいるのです。聖霊の結ぶ実は「愛、喜び、平和」などです。
聖書によれば、ペトロの話聞いて、多くの人洗礼を受けたようです。
彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であったのです。

そして、初代の信徒たちは、生活の中で神さまを心から礼拝するということが、そしてお互いに「分け合う」「分かち合う」ということを大切にしていたのです。一緒に悲しみと一緒に喜びを分け合っていたのです。今の時代にあっても、その形は変わってもその心、精神は大切だと思います。

このような信徒たちの姿を見て、好意をよせる地域の人たちも多くいたことが聖書にも記されています。現代を生きる私たちも、神さまを大切に心を込めて礼拝し、人を大切に祈り合い、喜びや悲しみを分かち合いながら日々歩みたいと願います。

37:人々はこれを聞いて大いに心を打たれ、ペトロとほかの使徒たちに、「兄弟たち、わたしたちはどうしたらよいのですか」と言った。

38:すると、ペトロは彼らに言った。「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。

39:この約束は、あなたがたにも、あなたがたの子供にも、遠くにいてるすべての人にも、つまり、わたしたちの神である主が招いてくださる者ならだれにでも、与えられているものなのです。」

40:ペトロは、このほかにもいろいろ話をして、力強く証しをし、「邪悪なこの時代から救われなさい」と勧めていた。

41:ペトロの言葉を受け入れた人々は洗礼を受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった。

42:彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。

- 43:すべての人に恐れが生じた。使徒たちによって多くの不思議な業とされるしが行われていたのである。
- 44:信者たちは皆一つになって、すべての物を共有にし、
- 45:財産や持ち物を売り、おのおのの必要に応じて、皆がそれを分け合った。
- 46:そして、毎日ひたすら心一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、
- 47:神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。